# 人形たちとつくる コミュニティスポット **ほうこり**

NPO法人いいだ人形劇センター



#### 事後評価報告書

- 1. 基本情報
- (1)特定非営利活動法人いいだ人形劇センター
- (2)人形たちとつくるコミュニティスポット
- (3)公益財団法人長野県みらい基金
- (4) 地域支援と地域資源連携事業
  - ~困難を有するこども若者その家庭の課題を地域ぐるみで解決する~
- (5)草の根活動支援事業
- (6)2020年3月~2023年3月
- (7)長野県飯田下伊那地域

#### 2. 事業概要

①社会課題:学校の義務教育になじめない小中学生の数が増加している。社会全体も大きな変革を迎えており、子どもたちは目指す正解がなくなり、見えないゴールを自分で設定して歩む時代になった。こうした時代に対応でき、学校だけに頼らない環境を作ることが求められている。

対象グループ:不登校や不登校予備軍の小中学生とその保護者、障害を持った子どもとその保護者

- ②事業の概要 (中長期アウトカム・短期アウトカム・活動)
  - (1) 中長期アウトカム

飯田市・下伊那地域において、困難を抱えた子ども・若者が人形劇を通じて、世代を超えてコミュニケーションを取り、互いに尊重し合いながら多様 性のなかで安心して暮らせる地域・社会になる

| (3)活動               | 時期 |
|---------------------|----|
| 【アウトプット 1-1 に対する活動】 |    |

| 1-1-1. 活動場所となる居場所の調査・選定。                              | 2020年4月  |
|---|----------|
| 1-1-2. 人形劇活動ができるための道具・材料の調達および環境の整備                   | 2020年8月  |
| 1-1-3. アマチュア人形劇団などとの協働による「居場所」の開設。                    | 2020年10月 |
|   |          |
| 【アウトプット 2-1 に対する活動】                                   |          |
| 2-1-1. 人形劇ワークショップ・活動場所の広報。                            | 2020年8月  |
| 2-1-2. 地域での人形劇ワークショップの実施。(オンラインによる参加を含む)              | 2020年9月  |
| 2-1-3. 新型コロナウイルス等の感染症予防に配慮した定期的な広報イベント等の開催(オンラインによる参加 | 2021年3月  |
| を含む)  |          |
|   |          |
| 【アウトプット 2-2 に対する活動】                                   |          |
| 2-2-1. 継続的な人形劇活動の「居場所」の提供。                            | 2020年10月 |
| 2-2-2. 専門家による助言と指導。                                   | 2021年4月  |
| 2-2-3. 人形劇公演のためのグループ形成。                               | 2022年1月  |
| 2-2-4. 人形劇制作(台本・人形・小道具・舞台セットなど)。                      | 2022年3月  |
| 2-2-5. 人形劇公演に向けた稽古。                                   | 2022年5月  |
| 2-2-6. いいだ人形劇フェスタ 2022 での人形劇公演。                       | 2022年8月  |
| 2-2-7. 人形劇公演の振り返りとブラッシュアップ                            | 2022年9月  |
|   |          |
| 【アウトプット 3-1 に対する活動】                                   |          |

| 3-1-1. 「居場所」周辺の地域住民及び高齢者への周知      | 2020年8月 |
|-----------------------------------|---------|
| 3-1-2. 「居場所」を協働する高齢者や地域住民の活躍の場を創出 | 2021年4月 |

#### ③出口戦略

- ・オリジナルプログラムをつくり、アウトリーチ活動を通じて収入を得る。
- ・これまでの活動の成果をまとめ、今後の重要な役割を果たせることを発信し、企業・団体・個人からの寄付を募る。
- ・現時点で継続していくための資金は助成金を獲得して、数年後の自立を目指す。

#### 3. 事後評価実施概要

- (1) 実施概要
- ①人形劇を体験した子どもの行動・心の変化に重点を置いた。
- ②アンケート・聞き取り調査
- ③施設側の職員にもアンケート・聞き取りして多角的に判断した。

#### (2) 実施体制

| 外部 | 菱田博之  | 事例検証 評価全般アドバイス  | 飯田女子短期大学 准教授         |
|----|-------|-----------------|----------------------|
| 外部 | 阪東亜矢子 | 事例検証 アンケート分析    | JIJO (ひとり劇団) 主宰 元保育士 |
| 内部 | 髙松和子  | 直接観察分析 事例検証     | いいだ人形劇センター 理事長       |
| 内部 | 植松敏明  | 直接観察分析 事例検証     | 人形劇団なむなむ 主宰          |
| 内部 | 吉田綾子  | 直接観察分析 事例検証     | 飯田市立追手町小学校 教諭        |
| 内部 | 後藤渉   | 直接観察分析 アンケート評価  | いいだ人形劇センター 理事        |
| 内部 | 木田敬貴  | アンケート・インタビューの実施 | いいだ人形劇センター 事務局長      |
|    |       | 報告書作成           |                      |

#### 4. 事業の実績

4-1. インプット (主要なものを記載)

| インプット  |  |            |          |          |          |  |  |
|--------|--|------------|----------|----------|----------|--|--|
| (1)人材  | 内部:合計6人(担当者1人、理事5人) 外部:合計15人(うち人形劇専門家5人)           |            |          |          |          |  |  |
| (2)資機材 | パソコン2台、タブ  | シャト4台、車いす  | 用スロープ、   | リヤカー     |          |  |  |
| 資金     | ①事業費 内訳:直接事業費 管理的経費 ②評価関連経費 ③コロナ対応緊急支援追加額 (自己資金含む) |            |          |          |          |  |  |
|        | ¥10,835,000  | ¥9,650,000 | ¥300,000 | ¥440,000 | ¥445,000 |  |  |

- (3)経費実績 10,050,915円
  - ①契約当初の計画金額 10,040,000 円
  - ②実際に投入した金額 10,050,915 円
- (4) 自己資金 750,000円
  - ①750,000 円
  - ②750,000 円事業経費
  - ③別の新型コロナ関連の助成金を活用して得た事業収入を投入した

#### 4-2. 活動とアウトプットの実績

#### (1) 主な活動

- ○居場所の運営 毎週火曜 14:00~17:00、第1・3木曜 15:00~18:00、第2・4土曜 14:00~17:00
- ○スタッフミーティング 毎月1回
- ○学習会 2回実施
- ○インターンシップ受け入れ 2022 年 8-9 月

#### アウトカム発現状況(実績)

#### ※2023年2月28日現在

|           | 2020年度                                  | 2021年度 | 2022年度 | 合計  |
|-----------|---|--------|--------|-----|
| 居場所運営     |   |        |        |     |
| 開所日数      | 42                                      | 85     | 89     | 216 |
| 利用者数      | 49                                      | 137    | 226    | 412 |
| イベント      |   |        |        | 25  |
| プレイベント回数  | 2                                       |        |        | 2   |
| ミニライブ回数   |   | 1      | 4      | 5   |
| ワークショップ回数 | 3                                       | 6      | 9      | 18  |
| 利用者数      | 38                                      | 50     | 153    | 241 |
| アウトリーチ活動  |   |        |        |     |
| 回数        | 000000000000000000000000000000000000000 | 4      | 9      | 13  |
| 利用者数      |   | 48     | 736    | 784 |

※展示来館者417人含む

# ○ほっこり内イベント

| 年月           | 内 容                            | 定員 | 参加者数 | うち保護者 |
|--------------|--------------------------------|----|------|-------|
| 2020年 9月20日  | プレオープンイベント 人形づくりワークショップと人形劇公演  | 10 | 15   | 5     |
| 2020年 9月27日  | プレオープンイベント 人形づくりワークショップと人形劇公演  | 10 | 9    | 4     |
| 2021年 3月27日  | 動画制作ワークショップ 1日2回 ※午前は中止        | 8  | 6    | 3     |
| 2021年 3月28日  | 動画制作ワークショップ 1日2回               | 8  | 8    | 4     |
| 2021年 7月24日  | ほっこりミニライブ                      | 20 | 13   |       |
| 2021年 10月23日 | 人形づくりワークショップ(みらい基金の伴走支援)       |    | 8    |       |
| 2021年 11月14日 | 動画制作ワークショップ 1日2回               | 8  | 13   | 5     |
| 2021年 11月23日 | くつしたで人形を作ってあそぼう ワークショップ        | 10 | 7    | 1     |
| 2021年 12月18日 | 三匹のこぶたの人形をつくって劇をしてみよう ワークショップ  | 10 | 7    |       |
| 2022年 1月22日  | 動画制作ワークショップチラシ 中学生対象           | 2  | 2    | 1     |
| 2022年 5月29日  | ほっこりミニライブ 追加公演あり (計2回)         | 50 | 42   |       |
| 2022年 7月9日   | モンスターパペットをつくろう! 追加あり (計2回)     | 20 | 43   | 19    |
| 2022年 8月27日  | 動画制作ワークショップ(計1回)※午後はキャンセルがあり中止 | 8  | 6    | 3     |
| 2022年 9月23日  | ほっこりミニライブ                      | 30 | 18   |       |
| 2022年 10月29日 | 人形づくりワークショップ                   | 20 | 12   | 4     |
| 2022年 11月12日 | ほっこりミニライブ                      | 30 | 14   |       |
| 2022年 12月10日 | モビールづくりチラシ                     | 5  | 6    |       |
| 2023年 2月25日  | 動画制作ワークショップ 1日2回               | 8  | 12   | 5     |
| 2023年 3月4日   | 動画制作ワークショップ 1日2回 追加開催          | 8  |      |       |
|              | 合 計                            |    | 241  |       |

# ○アウトリーチ活動

| 年月           | 内 容                                   | 参加者数 |
|--------------|---------------------------------------|------|
| 2021年 10月9日  | ゆめひろ(諏訪市) 人形劇公演と人形あそび                 | 23   |
| 2021年 12月2日  | Hug(松川町) 人形劇公演と人形づくりワークショップ           | 5    |
| 2021年 12月10日 | Hug(松川町) 劇遊び                          | 4    |
| 2022年 3月22日  | パドルダック(放課後デイサービス・喬木村)人形劇公演・人形あそび      | 16   |
| 2022年 5月21日  | ムトスぷらざオープニングイベント(飯田市) 人形劇公演           | 40   |
| 2022年 5月22日  | ムトスぷらざオープニングイベント(飯田市) 人形劇公演           | 90   |
| 2022年 7月4日   | オルタ(伊那市)人形劇公演・人形づくりワークショップ            | 18   |
| 2022年 7月4日   | いなまちBASE(伊那市)人形劇公演・楽器あそび              | 17   |
| 2022年 9月25日  | 体験型イベントワークショップ(高森町)人形づくりワークショップ       | 74   |
| 2022年 11月23日 | 丘のりんごオリーブ(飯田市)人形劇公演・人形あそび             | 24   |
| 2022年 12月1日  | Hugのあとりえ ~2023年1月25日 会場:飯田市川本喜八郎人形美術館 | 12   |
|              | 展示の入館者数                               | 417  |
| 2022年 12月3日  | 太陽学園(飯田市)人形劇公演・人形づくりワークショップ           | 20   |
| 2023年 2月23日  | 丘のりんごローリエ(飯田市)人形劇公演・人形あそび             | 24   |
|              | 승 計                                   | 784  |

# ○広報

# 1. 季刊情報誌Dogushi

| 年月        | 号数  | 内容                                   | 頁数 | 印刷部数 | 配布地域     |
|-----------|-----|--------------------------------------|----|------|----------|
| 2020年 7月  | 30号 | 特集:人形たちとつくるコミュニティスポット「ほっこり」誕生        | 3  | 7000 | 飯田市内全域回覧 |
| 2020年 10月 | 31号 | 特集:人形たちとつくるコミュニティスポット「ほっこり」始まりました    | 2  | 7000 | 飯田市内全域回覧 |
| 2021年 1月  | 32号 | 活動報告                                 | 1  | 6900 | 飯田市内全域回覧 |
| 2021年 4月  | 33号 | 活動報告②                                | 1  | 7000 | 飯田市内全域回覧 |
| 2021年 7月  | 34号 | 活動報告③                                | 1  | 7000 | 飯田市内全域回覧 |
| 2021年 10月 | 35号 | 特集 人形たちとつくるコミュニティスポット「ほっこり」オープン一周年   | 2  | 6900 | 飯田市内全域回覧 |
| 2022年 1月  | 36号 | 特集 人形持ってどこへでも 子どもたちの「居場所」づくり         | 2  | 6800 | 飯田市内全域回覧 |
| 2022年 4月  | 37号 | 活動報告⑥ 求められる「居場所」へ                    | 1  | 6900 | 飯田市内全域回覧 |
| 2022年 7月  | 38号 | 特集 人形たちとつくるコミュニティスポット はじめの一歩は かろやかに! | 2  | 6800 | 飯田市内全域回覧 |
| 2022年 10月 | 39号 | 活動報告⑧                                | 1  | 6800 | 飯田市内全域回覧 |
| 2023年 1月  | 40号 | 特集 人形たちとつくるコミュニティスポット 新しい仲間に出会えた3年間  | 2  | 6800 | 飯田市内全域回覧 |

### 2. チラシ・リーフレット

| 年月        | 内容                               | 印刷部数  | サイズ    | 配布地域           |
|-----------|----------------------------------|-------|--------|----------------|
| 2020年 9月  | 「ほっこり」プレオープンイベント 人形づくりワークショップチラシ | 10000 | A4両面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2020年 11月 | ほっこりチラシ11-12月掲載                  | 100   | A5片面   | 近隣施設など         |
| 2021年 1月  | ほっこりチラシ1-3月分掲載                   | 100   | A5片面   | 近隣施設など         |
| 2021年 3月  | 動画制作ワークショップチラシ                   | 9000  | A4片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2021年 3月  | ほっこりリーフレット                       | 1000  | A4三つ折り | 飯田市内公共施設・居場所など |
| 2021年 7月  | ほっこりミニライブチラシ                     | 300   | A4片面   | 近隣地域回覧         |
| 2021年 7月  | ほっこりチラシ8-9月掲載                    | 100   | A5片面   | イベント参加者・近隣施設など |
| 2021年 10月 | 動画制作ワークショップ/人形づくりワークショップチラシ      | 8500  | A4両面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2022年 12月 | ほっこり学習支援チラシ                      | 950   | A5片面   | 近隣小学校3校        |
| 2022年 2月  | Facebook、Twitter本格運用             |       |        |                |
| 2022年 5月  | ほっこりミニライブ/年間スケジュールチラシ            | 11000 | A4両面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2022年 6月  | モンスターパペットをつくろう!/動画制作ワークショップチラシ   | 9000  | A4片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2022年 8月  | ほっこりミニライブ/人形づくりワークショップチラシ        | 9000  | A4片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2022年 9月  | Instagram開始(インターンシップ)            |       |        |                |
| 2022年 10月 | ほっこりミニライブチラシ                     | 9000  | A5片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2022年 10月 | モビールづくりチラシ                       | 2500  | A5片面   | 飯田市内中学校及び公共施設  |
| 2022年 11月 | Hugのあとりえチラシ                      | 9500  | A5片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |
| 2023年 1月  | 動画制作ワークショップチラシ                   | 8500  | A5片面   | 飯田市内小中学校及び公共施設 |

# 3. 新聞・テレビ等

| 年月日          | 媒体           | 内容                               |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| 2020年 8月12日  | 南信州新聞        | 困難抱える若者の居場所に 飯田に9月「ほっこり」開設       |
| 2020年 9月22日  | 南信州新聞        | 皆で人形を楽しんで 「ほっこり」プレイベント           |
| 2020年 9月28日  | 信濃毎日新聞       | 人形劇で子どもの心軽く いいだ人形劇センターが交流の居場所    |
| 2020年 9月     | 飯田ケーブルテレビ    | 居場所「ほっこり」開設                      |
| 2021年 1月1日   | 南信州新聞        | 困難抱える子や若者の支援を「ほっこり」開設 世代超えた交流の場に |
| 2021年 11月12日 | 信濃毎日新聞       | 飯田で居場所づくり 活動広げる                  |
| 2022年 2月1日   | 長野放送         | 「ふるさとライブ」にてアウトリーチの様子を放映          |
| 2022年 7月     | 飯田ケーブルテレビ    | ワークショップの様子を放映                    |
| 2022年 12月14日 | 飯田ケーブルテレビ    | Hugのあとりえを放映                      |
| 2022年 12月17日 | 中日新聞         | 独自の世界、光る感性 知って 松川のフリースクール作品展     |
| 2022年 12月23日 | 飯田経済新聞(飯田FM) | 飯田でフリースクールに通う子どもたちの作品展 パペットなど    |
| 2023年 1月17日  | 信濃毎日新聞       | 松川町のフリースクールに通う子どもら 個性生き生き作品展     |
| 2023年 1月     | チャンネル・ユー(松川) | Hugのあとりえを放映                      |

## (2) アウトプットの実績

| ①アウトプット            | ②指標              | ③初期值/ | ④目標値/目標    | ⑤目標達成 | ⑥実績値               |
|--------------------|------------------|-------|------------|-------|--------------------|
|                    |                  | 初期状態  | 状態         | 時期    |                    |
| 1-1. 子ども・若者とその家族が容 | 子ども・若者とその家族の居場   | 0 か所/ | 1か所/飯田市    | 2020年 | 毎週火曜、第1・3木曜、第      |
| 易に訪れることができる居場所が    | 所設置数 (実数把握)      | 飯田市   |            | 10 月  | 2・4土曜に開設           |
| 生まれる。              |                  |       |            |       | コロナの影響はあるが、可       |
|                    |                  |       |            |       | 能な限り開所している。        |
| 2-1. 短期人形劇ワークショップ  | ①ワークショップ開催回数(実   | 0 か所/ | ①6 回/年     | 2023年 | ①は2年6カ月で14回実施      |
| を通して、子ども・若者がどうやっ   | 数把握)             | 飯田市   | ②5 人/回     | 3月    | ②約7人/回             |
| て作ることができるかを体験する    | ②ワークショップ参加人数(実   |       |            |       | (14 回計 96 人)       |
| 場となる。              | 数把握)             |       |            |       | ワークショップ回数と参加       |
|                    |                  |       |            |       | 者数は目標値に達してい        |
|                    |                  |       |            |       | る。一定の参加者を得られ       |
|                    |                  |       |            |       | ている。               |
| 2-2. 定期的に専門家を配置し、子 | ①開所日数(実数把握)      | 0 か所/ | ①80 日/年    | 2023年 | ①178日/2年6カ月        |
| ども・若者が失敗を繰り返しても、   | ②専門家の配置日数 (実数把握) | 飯田市   | ②30 日/年    | 3月    | ②178 日/2 年 6 カ月    |
| いつでもやり直せる環境となる。    |                  |       |            |       |                    |
| 3-1. 高齢者や地域住民が人形劇  | ①高齢者等の参加日数(実数把   | 0 か所/ | ①80 日/年    | 2023年 | ①145 日/2 年 6 カ月    |
| 活動の場に参加し、居場所を支える   | 握)               | 飯田市   | ②延べ 200 人/ | 3月    | ②延べ 268 人/2 年 6 カ月 |
| 存在となる。             | ②高齢者等の参加者数(実数把   |       | 年          |       | 現状、高齢者の積極的な参       |
|                    | 握)               |       |            |       | 加を促しにくい状況であ        |
|                    |                  |       |            |       | る。                 |

#### 4-3. 外部との連携の実績

- ○南信州子ども応援プラットフォーム−加入して近隣の施設との交流を図る。全体会議において活動報告をする
- ○人形劇団赤かぶ(地元の人形劇団) 人形と材料を寄贈
- ○地元企業-駐車場の無償貸与を受けた
- ○長野県みらい基金-伴走支援により、はみんぐ(伊那市)、Hug(松川町)から訪問があり、その後アウトリーチ活動へと発展した
- ○NPO 法人 Hug(松川町) −運営するフリースクールに出かけ、人形劇公演、人形づくり、劇体験をした
  - 2回目は川本喜八郎人形美術館(当センターが指定管理者)で「Hug のあとりえ」の作品展を開催した
- ○太陽学園(飯田市) -2022 年 4 月にオープンした飯田市初の民間総合型フリースクールに行って人形劇公演と人形づくりワークショップを実施した
- ○一般社団法人ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんご(飯田市) 運営する2施設に行って、人形劇の公演と人形あそびを実施した
- ○武蔵野大学−インターンシップ契約を結び、インターンシップ生を受け入れた
- ○長野県シニア大学-信州ねんりんピック 文化・芸術交流大会への参加協力をした
- ○人形美術家・からくり作家 オリジナルコンテンツを製作した

#### 5. アウトカムの分析

#### 5-1. アウトカムの達成度

#### (1) 短期アウトカムの計画と実績

| ①短期アウトカム              | ②指標               | ③初期值/    | ④目標値/目標状態    | ⑤目標達成時期 |
|-----------------------|-------------------|----------|--------------|---------|
|                       |                   | 初期状態     |              |         |
| 1. 居場所において、困難を抱えた子ども・ | ①居場所来所者の行動変化の調査(ア | 0 か所/飯田市 | ①初期値からの向上    | 2023年3月 |
| 若者が人形劇活動を通して、多様な価値観   | ンケート調査)           |          | ②来所者数平均 5 人/ |         |
| と出会える。                | ②居場所来所者数 (実数把握)   |          | 回            |         |

| 2. 人形劇活動支援を提供し、困難を抱えた | ①参加者への新たな発見についての調   | 0 か所/飯田市 | ①初期値からの向上  | 2023年3月 |
|-----------------------|---------------------|----------|------------|---------|
| 子ども・若者が様々なやり方を学んでいつ   | 査 (アンケート調査)         |          | ②ワークショップ参加 |         |
| でも人形劇活動ができる状態になる。     | ②ワークショップ参加者数 (実数把握) |          | 者数 5 人/回   |         |
| 3. 高齢者や地域住民の活躍の場を創出し、 | ①来所した高齢者や地域住民の意識調   | 0 か所/飯田市 | ①初期値からの向上  | 2023年3月 |
| 高齢者たちが困難を抱える子ども・若者へ   | 査 (アンケート調査)         |          | ②高齢者等の来所者数 |         |
| の「担い手」となる。            | ②高齢者や地域住民の来所者数(実数   |          | 5 人/回      |         |
|                       | 把握)                 |          |            |         |

#### (2) アウトカム達成度についての評価

1. 居場所において、困難を抱えた子ども・若者が人形劇活動を通して、多様な価値観と出会える。

#### ○達成度

- ・環境と体制を整えることができた。日々の活動やイベントを通して参加者の様子を観察し、スタッフ間で情報を共有するなかでより良い方法を見つけていった。新型コロナ禍で始まったため、まだまだ必要としている子ども・若者にはアプローチが足りていない。2022 年度は3年間で初めて年間通してイベントや居場所を休むことなく実施できた。少しずつ周知が進み、またコロナの影響も減少してきたこともあり、本来目指していた活動が実現できている。
- 2. 人形劇活動支援を提供し、困難を抱えた子ども・若者が様々なやり方を学んでいつでも人形劇活動ができる状態になる。

#### ○達成度

居場所内には人形づくりをはじめ、舞台で遊べる人形などを設置して体験できる環境を整えた。異なる種類の人形づくりワークショップや操作体験、 やかんやテープカッターなどの日用品に目をつけるなど、様々な方法を実施した。体験の前には人形劇公演をすることも多く、実際に見た後に体験する ことで「やりたい」気持ちが自然と湧くようにプログラムの構成を工夫した。

アウトリーチでも人形劇公演とワークショップをセットにしている。そうすることで観劇後の高揚感をそのまま人形づくりに生かすことができる。また公演についても、最初に音楽の演奏で子どもたちの緊張をほぐすことで、人形劇に入っていきやすくなる効果もある。

- 3. 高齢者や地域住民の活躍の場を創出し、高齢者たちが困難を抱える子ども・若者への「担い手」となる。
- ○達成度

コロナ禍による自粛生活の影響が大きく、広く活躍の場を提供することができなかった。中核のスタッフの紹介を通じて広げるにとどまった。

#### 5-2. 波及効果

- ①スタッフ間での人形劇の理解が深まった。人形そのものの価値や子ども・若者にとって人形はどのように機能するかを話す機会が増えた。上演活動では気づけなかった人形の持つ可能性を知ることができた。また学習会を開いて、発達心理学の側面からも人形の持つ特性を考え直す機会を持てた。それによって、子どもが人形とどのようにコミュニケーションをとっているか、どのようにアプローチしているかを観察しながら、実際に子どもと接する時にも役立てられた。子どもは人形を持つと空想の世界に自然と入り、そのなかで安心して楽しむことが見て取れた。
- ②人形劇活動を大きく捉えなおすことができた。近年のニーズや関心をもとに動画制作のワークショップを開催し、普段人形劇活動にはあまり参加しない小学校高学年から中学生の参加があった。創造するという共通の入口から入ることで、実際の会場内に設置してある人形や舞台を見て興味を示すことがあった。またプロジェクターを使って説明をしていたが、この光を使って影絵を紹介することもできた。参加者にとっても目の前で見ることで、イメージを膨らませたり変化させたりすることができる。人形劇は「見立て」の文化であるため、既存のものを別のものに置き換える(想像する)ことは子どもが得意であり、楽しい遊びのひとつである。
- ③不登校の子どもが集まる施設で人形劇公演と人形づくりワークショップをした。観劇後にひとりの女子小学生が「人形劇は私には合わない」と言って 予定していたワークショップに参加しなかった。施設の職員に話を聞くと、普段はなぜ不登校なのか分からないような児童だったが、出てきた人形の 何かが彼女の心に引っかかったようで「思い出すと眠れないかもしれない」と言っていたという。私たちも人形を楽しめない子どもに出会ったのは極 めてまれであったが、そこをこちらもしっかり受け止めて、「合わないものがあった」ということに気づけたことが重要であると理解した。多様な価値 観と出会えたからこそ「合わない」という考えに至ったと言える。またそういう思いを身近な職員に言えたことも本人が前向きに進める一歩になるの ではないかと考える。

- ④親の厳しいしつけによって自己表現できない子どもが自由度の高い人形づくりにおいて、日ごろ押さえつけられた気持ちを解放して楽しんで参加していた。びしょびしょになるまで絵具を塗れたことが重要である。言葉にすることは難しくとも、こうして行動を通して気持ちを解放できることは手作りワークショップの良さである。
- ⑤学校では、言葉と文字を多く学び、言語で伝達することを求められる。しかしながら、言語は言葉や文字だけとは限らない。子どもの特長は身体言語であり、言葉や文字に頼らない視覚的あるいは聴覚的な表現方法も存在する。例えば、Hug のあとりえでの作品を見ると、彼らがどれほど視覚表現を得意としているかが見て取れる。作者「お rr 茶」は、作品の独特な世界観を持っていることに加え、読むことを基本とする大人に対して、作者名を通して音に出して読めることは重要なのかという問いを投げかけているようにも思える。「文字にする」「意味のある音にする」ことが表現のすべてではないことを全体の作品を通して問いかけてくる。これは芸術の世界だからこそ表現しやすいのである。
- ⑥不登校の中学生が通う施設に人形づくりと人形劇体験をするために2週に分けて実施した。2回行くことで少し打ち解け、人形を介することで普段とは違う面を見ることができたと施設職員から聞く。その数か月後、今後の連携の相談に行くと、そのなかの一人はがんばった反動からか、人形劇はもうやりたくないという気持ちを持っていると聞く。長期的に見ていかないと、1回だけの評価では見落としてしまうことがあることに気づく。 大人はどうしても先回りをして、子どもたちの先を行き過ぎることがある。それによって「押し付け」「やらされ感」を持ってしまい、かえって逆効果になることが少なくないのではないだろうか。そこで、次回は子どもたちが好んで製作している絵を展示することに決めた。およそ8ヵ月かけて作品をつくって展示会が実現した。その後同スタッフが施設を訪れた時に、子どものほうから初めてスタッフの名前を呼んで声をかけてきたという。一緒に作業したことによって、その子どもの内なる扉が開かれたのだ。
- ⑦Hug のあとりえは、地元ではない会場で展示できることでストレスを感じずに取り組めたのがよかった。チラシを作成した際に、地元には配布しないでほしいという要望もあった。表現はしたいが地元の同年代には知られたくないという複雑な気持ちが見て取れる。ところが、その後、感想ノートにたくさんのメッセージが書き込まれ、地元のマスコミにも取り上げられたりして会期の約2カ月が過ぎると、地元でも展示してもいいよという気持ちの変化が生まれた。これは表現活動によって起きた非常に大きな心の変化である。自己表現したものが認められると、これほど大きな自信につながるのは私たちにとってもとてもうれしい驚きだった。

- ⑧動画制作ワークショップに参加後、定期的に通うようになった小学生がいる。7カ月後にYouTube に初めて公開した時も「ほっこり」だった。定期的 に開催する動画制作ワークショップにお手伝いをしてほしいと声をかけ、参加者ではなく教える立場で加わり始めた。数回繰り返した後、最後のワークショップの際にも声をかけたところ、「僕も手伝いたいと思っていた」と初めて能動的な返事が返ってきた。関わるスタッフが変わったり、異なるイベントにも参加するようになることで、動画制作の技術だけではなく、心の成長もできたのではないか。
- ⑨舞台芸術は一般的に一期一会で、その瞬間の非日常体験を届けることが特長である。ワークショップはその非日常の体験によって変化を促す作用を持っている一方、その手法が合わない子どもも少なからず存在する。人形を通した活動はよい変化を定期的に届けることで常態化させることができるのではないかと考える。人形劇はもともと人形劇用の材料があるわけではなく、日常にあるものを別のものに見立て、組み合わせることで完成する。

#### 5-3. 事業の効率性

・子どもたちと接する際に人形を使うと早く距離を縮められることが多い。中学生のいる施設に行った時に、少し芸術性の高い人形を室内に置くとそれ に興味を持って、その人形を介して会話が始まる。自己紹介も人形を通すことで、あまり緊張せずに声を出すことができる。

#### 6. 成功要因・課題

#### ○成功要因

- ・子どもたちと同じ方向を向いて取り組んだことがよかったと考える。私たち大人が良かれと思って接することが子どもたちにとって本当に良いことな のだろうかと常に問いかけながら伴走することを心掛けた。
- ・コーチングの中にある「何を言うかではなく、何を言わないか」ということに気をつける必要がある。子どもは一度面白いと思えば、その集中力や習 熟度の高さは目を見張るものを持っている。いかに彼らのやる気を削がないように接するかも重要である。
- ・表現活動の重要性は居場所づくりをして改めて強く感じるようになった。正解のない時代を生き抜いていくためには、自分で問いを立てて、自分なりの答えを探しながら進めていかなければならない。それには表現活動が相性がよい。もともと正解があるわけではないため、個々の多様性を重んじることもできるし、必ずしも言葉を必要とはしないし、想像の世界の中で自由に駆け回ることができる安心安全な環境が確保されている。正解が求められる学校でのストレスを感じずに、心の中が伸び伸びとできる表現活動はますます重要になってくると考える。

#### ○課題

- ・子どもの変化は時間がかかるため、中期的に見ていくことが重要である。特に長い期間を経て形成された内的な問題は、同じ期間以上かけて忍耐強く 待ち続けなければならない。心の扉は外側ではなく、内側からしか開けられない。この時間を待てる支援が必要である。
- ・教育にかける国の予算が少ない。国内でも寄付文化が少しずつ広がってきてはいても、既存の学校から溢れてしまった子どもは多種多様な原因を持ち、 その数も増加傾向にあるため、自立したモデルケースもまだまだ少ない。
- ・社会全体に学校以外に成長できる場があることが一般的にまだ認識されていない。「不登校」が一般化されているのは「登校」が前提だからである。と ころがコロナ禍で露呈したように学習も娯楽も同世代・多世代とのコミュニケーションもオンラインでできてしまう。学習に関しては、個人の能力に 合わせて進めることができる。この現状の中で、子どものやる気を引き出すにはまだまだ選択肢が少ない。子どもの興味はさまざまあるので、それら を受け入れられる場所がたくさん必要である。
- ・AI 技術が進歩する中で、数値化できない表現活動やアートの分野がより重要になってくると考えられる。一方、芸術教育は英語やプログラミングなどの時間が増えることによって、さらに学べる機会を失っている。教える側の教員も芸術に明るい人材が非常に少ないのではないだろうか。
- ・「高齢者や地域住民の活躍の場を創出し、高齢者たちが困難を抱える子ども・若者への「担い手」となる」はコロナ禍の影響を大きく受けた。自粛生活 のなかで高齢者へのアプローチは大変難しく、広く呼びかけることすらできなかった。

#### 7. その他深堀り検証項目

- ・当初は人形劇をつくる過程において、さまざまな発見があると想定していたが、人形そのものの機能を掘り下げることによって、子どもへのアプロー チ方法を変えていった。
- ・居場所に来てもらうのではなく、出ていくことによって活動の幅が広がり、私たちの蓄積も深まった。
- ・継続的な連携が必要であることを実感した。

#### 8. 結論

8-1. 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

|             | 多くの改善の余地があ | 想定した水準までに少 | 想定した水準にあるが | 想定した水準にある | 想定した水準以上にあ |
|-------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
|             | る          | し改善点がある    | 一部改善点がある   |           | る          |
| (1)事業実施プロセス | 0          |            |            |           |            |
| (2)事業成果の達成度 |            | 0          |            |           |            |

#### 8-2 事業実施の妥当性 ※アンケート表を後日添付します

- ・居場所において、食・学習以外の分野はまだまだ実践されているところが少ない。人形劇という表現活動を通じた取組みは想像以上に、繊細な気持ちを持った子どもたちにはとても相性がいいことが分かった。
- ・居場所の職員において、芸術活動が好きな子どもたちをどのようにサポートすればいいか分からないという声を聞いた。人形劇は総合芸術であるため、 さまざまな角度から子どもたちに情報を提供することもできる。
- ・コロナ禍において家の中で過ごす時間が長くなり、これまで問題にはなっていなかった子どもまでが精神的に困難を抱えるケースが増えた。人形劇は そうなる前段階で役立てられることが分かった。
- ・居場所において、2年間定期的に通っていた小学生がワークショップのお手伝いに来ていた際に参加者に対して「第2・4土曜日に僕はいるよ」と言っていた。彼にとっての心地よい居場所であることを宣言した瞬間である。

#### 9. 提言

・生命や健康を維持するためには食は欠かせない。大人になって生活していくためには学習が必要である。しかしながら、「何のために生きていくのか」という問いには表現活動がとても重要になってくる。何が楽しいのか、何をしているときが自分らしく感じるのか、誰といると安心できるのかなど、食べて学習するための気持ちを持つには自己表現できる環境が大切である。その表現のひとつが舞台芸術であり人形劇である。ひとりひとりの子どもたちに何が合うのかは千差万別であるため、人形劇に限らず、さまざまな自己表現できる環境を用意することが必要である。音楽、美術、スポーツ、森や海などの自然、コンピューター、料理など。遊びの中からもたくさん学べることがある。子どもと接する大人の心と頭の柔軟性が求められる。また大人自身が日々を楽しく過ごしていれば、自然と子どもにも良い影響を及ぼすことができる。失われた○○年とマイナスの面ばかりを見るのではな

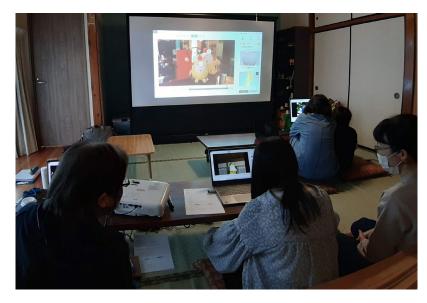
く、新たに生み出された楽しいことに目を向けることも重要である。

#### 10. 知見·教訓

- ・創造性豊かな子どもの感性を伸ばすために、できるかぎり同じ目線・同じ方向を見て接することが大切である。
- ・予想外のうれしい結果になる時はあるが、それを期待するのではなく、子どもが目指している姿を一緒に想像して歩むことが重要である。
- 11. 資料 ※公開できるかどうかを精査できていないため、写真は再検討します。 2020 年度の様子











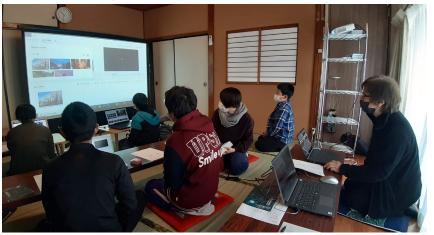


## 2021 年度の様子



















# 特定非営利活動法人いいだ人形劇センター

# 人形たちとつくるコミュニティスポット

飯田市・下伊那地域において、困難を抱えた子ども・若者が 自らの考えで積極的に行動できる地域・社会になる

2020/4 2021/4 2023/3 2020/10 2021/10 2022/4 2022/10 1ロナ猛威を振るう 8月人形劇フェスタ中止 10月近隣の駐車場を無償提供 12/12地元劇団から人形・小道具等の寄贈 新型コロナウイルスの影響 >事後評価 9/29 参加費200円 オンラインで Outcome 01 3/27,28 第三の居場所ゆめ 出口戦略(商品化) 困難を抱えている若者の 検討。準備 ほっこりオープン (アウトリーチに) 9/27 アウトリーチ アウトリーチ アウトリーチ Hug 動画製作 ひろ訪問 毎火曜14~17時 居場所において、困難を抱えた子ども・若者が人形劇活動を通して、 人形劇をパッケージ化 プレオープンほっ 子どもの居場所と 毎火曜13~16時 定義づけが大きく変わった ルダッククラブ 音楽演奏+人形劇 はみんぐ 丘のりんご人形劇公演+ 人形づくりWS&劇 第1・3木曜15~18時 WS 10月 多様な価値観と出会い、考えや行動を表出できる環境になる。 月に変更 つなげる 人形劇公演 上演+WS 体験 第2・4土曜14~17時 7/20 運営メンバー 12/27,28,1/6 ミニライブ+WS 5 7/24 7/9 アウトリーチ 12/12 親同士で交 スタッフが アウトリーチを 11/14 アウトリーチ アウトリーチ 交流の大事さ でも困難を Outcome 02 地域限定の冬休みの 人形づくりWS2回 音楽と人形劇の アウトリーチ活動に重点を置く 音楽演奏+人形劇+W 個別に声掛 トライアル 飯田下伊那中学生中心 人の集まるところで演じる作品を計画 足の便が無 ミニライブ けする こWSを実施4人 人形劇活動支援を提供し、困難を抱えた子ども・若者が様々なやり方 アウトリーチ主体へ を学んでいつでも人形劇活動ができる状態になる。 はじめに必要なのは人 8/27 対象者の変更、 プラット 2022年12月1日~ 3/30 リーフ 一人ひとり色々な アウトリーチ 映像制作WS 商店街で地域を Outcome 03 人形劇×音楽×体験 困難、ひきこも 人形づくり劇遊び 人形づくりWS2回 人形づくり劇遊び フォームと 2023年1月24日 ことがあり障がい レット完成 身近に寄り添える大人 人形づくり一般社団 1回4人 まきこんだ人形劇WS プログラム は来ない ①4人②2人 高齢者や地域住民の活躍の場を創出し つながる WS lugあとりえ展示 の存在 法人おもちゃの木 高齢者たちが困難を抱える子ども・若者への「担い手」となる。 11月~広報が 8月~SNSを 8/22 MTG2 2/18 MTG6 3/16 MTG⑦ 動画WS 太陽学園 対象の方向性の修正 小学生 展示会のことを学校区 広まっていて 人形劇、間口が狭い 家族単位での参加 インターンシップ。武蔵 地域団体との プレイベントの はじめる 小学生 でPRしてほしくない Youtuber 居場所に利用 動画WSは人形劇と 参加者が来るため リーフレット内容の 広げたい 歌 野大/インスタ開始 定期的な共同事業 開催日決定 手伝いのような感じて は異なる年代が参加 に何ができるかを 検討。WSの準備 参加できるようにする 話し合う。 人形劇の絵を 火曜 - 高齢者 1月~SNSを 関連団体とのつな 書いてもらお 9/29からのシフト 木曜 – 高校生 WSをはじめるモンス 生ボランティア 学習会②小学校 ターパペット目玉影絵 土曜ー子育て世代 [計画→コロナで延期または休止] を繰り返す アナログと 駐車場を ↑ FB、Twitter 吉田綾子先生 プログラミング 無料で貸して デジタルの融合 もらった 想定していた活動は密になって楽しむことが最 4,7,10,1月の計4回 広報にスピー 7,10,1月の計3回 人形劇をゴリ押 大の特長であった 最終年に向けて、ほっこりイベント、アウト 季刊情報誌Dogushiにて定期的 信州ねんりんピック(シニ ド感を持ち 季刊情報誌Dogushi しするのはよく リーチの年間スケジュールをしっかり練る 乳幼児の文化 大学) 文化芸術交流大学 な活動報告と市内回覧配布 JANPIA主催の「プロ て定期的な活動報告掲 ないと気付く 、それができなくなったことで新たな方 デビューの場 向性を見出すきっかけにもなった 月オリジナルコンテンツ開発 ■ 6月~居場所を生かしたからくりBOXの企画提案 みらい基金・伴走支援 6月アウトリーチを 対象者を待っている事業から、 他地域の子ども支援団 子ども支援団体を人形劇 拠点はできたが子ど対 子ども支援団体と 出口戦略検討 アウトリーチへの提示 コロナ緊急枠による アウトリーチによって呼び込む。 定期的な出張 象者へのアプローチが 繋ぐ子ども応援 団体同十の連携・協力 他の助成金情報提供 体に人形劇と関われる 子ども支援団体ZOOM

いグレーゾーン支援 資金支援

プラットフォーム 機会を作ることを提言

横の連携が強化される

に招待・ワークショップ こも参加

対象者への到達

対象者へ変換 他の団体と連携事業が生まれる

ワークショップ

日本財団申請

芸術と福祉の連結→県文化政策課への低減(アーツカウンシルと連携)

飯田市商業市街地活性課、飯田市教育委員会(文化会館)、長野県シニア大学、 Stakeholder Map いいだまちづくりカンパニー、イイダウェーブ、りんご並木ネットワーク、 人形劇団なむなむ

飯田市: 共生協働推進課、こども家庭支援センター、こども発達センターひまわり 飯田市公民館、南信州応援プラットホーム、サポートセンターFree Wing、 新スタッフ(吉田、森山)、2022年1月~新スタッフ後藤

ミーティング設定

-般財団法人 おもちゃの木、一般社団法人 太陽学園 一般社団法人 ソーシャルデザインプロジェクト丘のりんご、NPO法人Hug 7月9日~有償ボランティア募集、2022年1月~居場所づくり 新スタッフ後藤